

2014年10月30日

大阪産業大学附属中学校

2013年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属中学校
学校関係者評価委員会

10月27日に学校関係者評価委員会（8名中6名の委員が出席、他に代理出席1名）を開き、会議冒頭にホームページに掲載している体育祭・文化祭の動画を視聴し、その後、学校が公表している学校教育自己評価に基づいて大阪産業大学附属中学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

体育祭・文化祭の動画を視聴した学校関係者評価委員から「生徒が生きいきとしている」「とても良い雰囲気である」との感想が出され、「特別教育活動を通じた人間教育を重視している」との評価がなされました。

1. 2013年度 学校教育自己評価について

授業アンケートの結果に関して「生徒が主体的に学習に取り組む」ことが大きな課題になっていることについて、「この問題を含め授業アンケートの結果を教員間で議論していくようにしていつかは」との提案がなされました。

また、生活アンケートについても「この学校の生徒は、校則を守っている」という項目への回答状況を生徒へフィードバックするようにして、アンケート結果を活かしていくことが提起されました。遅刻や校則を守っていないことへの指導に当たっては、注意するだけでなく違反する理由を聞いてやるなど良く話をするのが大切であるとの意見も出されました。

2. 学校教育への提言

A. 保護者から

生徒が挨拶をよくしていることに関して「学校に来ると生徒が次々と挨拶してくれて、挨拶を返すのが追いつかないぐらいだ」との表現で評価を受けました。

本中学校に対して小規模校で目が行き届いているとの評価がなされる同時に、中学校・高等学校・大学と進むにつれて「主体的に学習に取り組む」ことがより求められるようになり、そのことを考えて指導していくことが大切であるということも話し合われました。

B. 近隣地域住民から

「中学・高校併せて2000人を超える生徒がいるわけだから、時には宜しくないことも起きることがあるが、地域の評判は年々良くなっている」との評価を受けました。学校への注文を聞きましたが、強いて言わなければならないという程のことはないとのことでした。

C. 大阪産業大学の教員から

附属中学・附属高校ということなのだから、受験勉強を重点にするということではなく、大学で学ぶことができる学力を身につけることはもちろん必要だが、人間力を高める教育をしてほしいとの要望が出されました。また、中・高・大の連携をすすめていくことが話し合われました。